

「歴史・文化・自然を活かしたまちづくりと観光」講演会

表記の講演会が12月16日(土)午後に学部棟201教室で行われた。観光をテーマにした特別研究奨励費、それと人間文化研究所共同研究プロジェクトの一環として、東京大学の西村幸夫教授を招いて講演を企画した。

西村教授は『都市保全計画』という1000頁を超える大著を出版されるなど、都市計画の第一人者として活躍されている。運良く日程を確保してもらうことができ、今回の講演会となった。年末の寒い日にもかかわらず、大きな201教室に延べ100名近い人が集まった。公開講座や授業公開



を聴講した人の参加も多かった。ゼミの卒業生や名古屋市の方の参加もあり嬉しかった。なにより嬉しかったのは、日程をやり繰りして熱心に手伝ってくれたゼミ生である。

講演のタイトルは講演会と同様だが、写真をふんだんに使った90分間はあっというまに過ぎていった。とりわけ高山や金沢など7つの事例紹介は、「観光まちづくり」を考えるうえで示唆に富むものであった。「近き者悦びて遠き者来る」という論語を紹介して、観光まちづくりの真髄を述べて講演を終えた。講演のあと、本研究科の服部教授と吉田教授のコメント、そして会場からの積極的な発言へと続いた。教授がじつに丁寧に質問に答えられたのが印象的であった。



講演会を企画して、司会をつとめた私にとっても、本当に勉強になった3時間であった。とくに名古屋の観光まちづくりにも多くの示唆が得られた。そ



れとパワーポイントと映像をうまく使った講演も参考になった。もっとパワーポイントに「パワー」を入れていきたい。



(2006年12月18日 記)